

【東京】農林水産省は15日、2018年度の畜産物価格を正式決定した。加工原料乳生産者補給金（1キロ当たり）は17年度より10銭上げ10円66銭とした。牛乳乳製品の需要見込みに基づき設定する交付対象数量は、17年度より10万トン少ない340万トンとし、補給金必要額を363億円とした。

加工原料乳生産者補給金は、飲用乳より安い加工原料乳の乳価に補填（ほてん）され、生産支援する。同日開いた食料・農業・農村政策審議会に諮問し、答申を受けた。補給金のうち2円43銭は、乳業工場から遠いなどの条件不利地の酪農家の集乳経費を補助する「集送乳調整金」。農林水産省によると、17年度の補給金見込み実績は、当初の必要額より53億円少ない317億円と見込まれる。

また、18年度からはホクレン以外の生乳仕入れ業者に出荷する場合も、初めて補給金制度が適用される。十勝管内などでは出荷先をホクレンから生乳卸のMMJ（群馬）などに切り替える酪農家が増えており、今回の制度適用は酪農家にとって朗報となりそうだ。

指定食肉の安定価格では、豚肉が1キロ当たりで安定上位価格が595円、安定基準価格が440円で、ともに17年度と同額に据え置いた。牛肉は1キロ当たりで安定上位価格1255円で、17年度より40円引き上げ、安定基準価格も同25円増の925円とした。

18年度の関連対策事業の概要も発表した。酪農生産基盤強化費を拡充、17年度比3億円余り増の43億8000万円を充てる。乳用雌子牛の生産拡大に向け北海道などへの外部預託への支援費（1頭当たり最大6万9000円）、酪農ヘルパー認知度向上の取り組み支援費などを盛り込んだ。

「耕畜連携」に期待感 ノベルズが浦幌に新牧場

2017年12月27日

【浦幌】肉牛、酪農、食品事業を展開するノベルズ（上士幌、延與雄一郎社長）を中核とするノベルズグループは、浦幌町内に牧場2カ所を新設するのに伴い、畑作と酪農で循環型農業を目指す「耕畜連携」を進める。両牧場で100人程度の雇用も生まれることから、町内では地域活性化の期待が高まっている。



来春着工する浦幌の牧場建設予定地（町統太101番地）

100人程度雇用創出も

同グループではバイオガスプラントで生産する有機液肥の消化液を地域の畑作農家に提供し、乳用牛の飼料に適したデントコーンの栽培を委託する。

この耕畜連携を推進するため、新会社を立ち上げる。業務内容は（1）消化液散布、デントコーン収穫等農作業を請け負うコントラクター事業（2）飼料の調達および混合飼料（TMR）の供給事業—を計画している。

先に牧場新設を計画していた幕別町駒畠の用地は、消化液の貯留施設や収穫後のデントコーンを集積する施設として活用する。新会社は浦幌、幕別両町の畑作農家と連携を進めていく。

清水町で乳用牛約2200頭を飼養するノベルズデーリーファームではすでに、デントコーンの栽培を地元の畑作農家に委託。今年春には御影のバイオガスプラントも稼働を始め、生産された消化液の散布サービスを実施している。

同グループは2020年の生乳生産量を清水、浦幌で年間8万5000トンと設定。各牧場ごとの生産量は明らかになっていないが、浦幌町内の生産量は年間約3万5000トンであり、大幅に増える見込み。

新設の牧場2カ所で生産する生乳は全量、JAうらほろ（馬場幸弘組合長）に出荷する予定。受け入れ先としては町内には乳製品会社「浦幌乳業」もある。同JAは「生乳生産量が足りない状況だったので、大幅に増えるのは良かった」としている。

また、両牧場で約100人の雇用が生まれることから、地域経済の活性化も期待される。水沢一広浦幌町長は「人口が増えることはありがたい。町の経済振興に良い波及効果が期待される」と話している。